次世代に受け継ぐ②

大口町の伝統芸能

前号に引き続き、大口町の伝統芸能団体の活動についてご紹介します。

年間を通して、さまざまな活動をされている団体の皆さん。一方で伝統芸能を伝えていくために必要不可欠な「担い手」の確保に向け、さまざまな取り組みもおこなわれています。

「まずは、存在を知ってもらって、その良さを間近で見て共感してもらいたい」と、毎年秋に、大口北小学校と大口町伝統芸能保存会の共催で、3年生を対象に「ふるさと大口お祭りたいけん広場」がおこなわれています。コロナ禍のため昨年は残念ながら中止となりましたが、今年は例年の3団体（上小口伝統工芸保存会・中小口伝統芸能保存会・河北木遣保存会）が、個別で子どもたちに向けて、体験や見学の場を設けました。

子どもたちにふるさとを愛する心を

11月5日（金）、北小学校体育館で、河北木遣保存会の皆さんが3年生の子どもたちに向け木遣りを披露し、実際に道具を触ってみたり音を出してみたりして、この地域に伝わる珍しく貴重な伝統芸能に触れる機会を設けました。

「尾張名古屋は城でもつ…　皆さんが住む愛知県には立派な城がたくさんありました。『木遣り』は、江戸時代、この地に住むお殿様がお城やお寺を建てるため、木曽の山奥から大きくて重い『心柱（しんばしら）』を運んでくるときに、みんなで力を合わせるために唄った「木引き」が語源とされています」と河北木遣保存会代表の宮田さん。「采（さい）と呼ばれる棒を振り、御神木をかつぐ人たちの音頭取りをします。前進したり腰を落としたり、結構難しいんだよ」子どもたちは興味津々です。拍子木（ひょうしぎ）を打つ音の大きさにもびっくり。桜の木でできていて、体育館の隅々まで響き渡る澄んだ音がします。実際にたたいてみた子どもからは「けっこう重い！」という感想が。

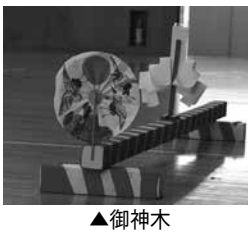
北小学校で毎年おこなわれているこの行事について、3年生担当の戸嶋俊教諭は、「子どもたちは、この広場で初めて拍子木や獅子屋形（ししやかた）を目にします。日本の伝統文化を実際に目にし、音や形の美しさに興味を持つと同時に『伝統文化を引継いでいくということ』を肌で感じて理解するきっかけとなっているようです。感想文の中に、『おまつりに参加してみたい、おまつりについてもっと知りたい』と書いているんですよ」と意義を語っておられました。また、「今はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいる子が少ないので、いろいろな世代の人と接することができる貴重な機会となっていますね。自分の住んでいるまちにどんな文化や名物があるのかを深く知って、ますます大口を好きになってほしいです」と、子どもたちの心の中に末永く思い出として残ることを期待しておられました。

宮田さんも、「行事の後にもらう感想文がうれしいです。拍子木を打ったり御神木をかついだりして、その重さにびっくりしたという感想が一番多いです。やはり実際に目で見て体で感じてもらうことが大切だなと改めて思います。子どもたちの思い出となって記憶でつないでいってもらえるよう、これからも続けていきたいです」と語り、未来を担う子どもたちにふるさとや、ふるさとに伝わる文化を愛する気持ちが芽生えて根付くことを祈っておられました。

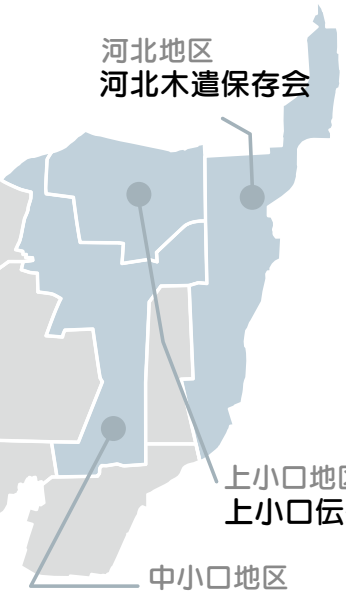
▲春の伝統芸能発表会（堀尾跡公園）

河北木遣（きやり）保存会

会員数　26名
代表者　宮田和美さん
練習場所および時間
河北学供
現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、練習は休止中
成り立ち　平成4年、河北神明社の建立を記念して、河北交友会を母体とし、地域で活動するメンバーを誘い合って結成しました。
主な年間行事　春の伝統芸能発表会（金助桜まつり）（4月）、秋の伝統芸能発表会（10月）、大口北小「ふるさと大口・お祭りたいけん広場」（11月）
思い出の参加行事　愛知万博おおぐちDAY（平成17年）、稲沢市国府宮裸祭り大口奉賛会大鏡餅奉納（平成18年）、大口中学校校舎新築完成式典（平成20年）、松江市堀尾吉晴公銅像完成記念式典（平成25年）、松江市政10周年記念伝統芸能フェスティバル（平成27年）


▲御神木

▲柏子木



中小口伝統芸能保存会

会員数　12名
代表者　安藤邦彦さん
練習場所および時間
中小口地区コミュニティセンター
毎月第一日曜日、発表会前1か月半前から毎週土曜日午後7時から9時
主な年間行事
春の伝統芸能発表会（金助桜まつり）（4月）、秋の伝統芸能発表会・地区の祭り（10月）のほか、歳旦祭、家祈祷（やぎとう）、厄除祭、月次祭、祈年祭、水神祭、夏越の神事（輪くぐり）、神輿祓（みこしばら）い、例大祭、新嘗祭（にいなめさい）
思い出の参加行事
大縣神社（犬山市）の初恵比寿祭に参加

▲北小学校３年生の体験学習

上小口伝統芸能保存会

▲秋の伝統芸能発表会（小口城趾公園）

会員数　12名

代表者　吉森文夫さん

練習場所および時間　上小口学供　毎月第1・第3日曜日　午後7時から9時（コロナ感染拡大予防のため休止中でしたが11月より再開）

成り立ち　昔から上小口に伝わる獅子屋形ですが、町制40周年を記念し上小口伝統芸能保存会として結成されました。

主な年間行事　春の伝統芸能発表会（金助桜まつり）（4月）、輪くぐり（7月）、秋の伝統芸能発表会・地区の祭り（10月）、御神送り・御神迎え（11月から12月）

思い出の参加行事　大口町制40周年の翌年（平成15年）の6月、NHK夕方の番組に大口町が紹介され、その際NHKホールにて獅子屋形の引き回しと演奏をしました。

保存会では、男女問わず、大人から子どもまで伝統芸能に関心のある方を募集しています

問合せ先
大口町歴史民俗資料館
94-0055

豊田地区
豊田獅子囃子保存会

豊田獅子囃子（ししばやし）保存会

会員数　14名

代表者　社本亘さん

練習場所および時間　八劔社社務所　お祭りの1か月前から　毎週土曜日午後7時から9時

成り立ち　一時途絶えていましたが、昭和53年、獅子神楽の奉納と氏子の繁栄を祈願する目的で、堀尾顕彰会と八劔社からの依頼により再結成されました。

主な年間行事　新年のお囃子（元旦、八劔社）、春の伝統芸能発表会（金助桜まつり）（4月）※集会所6か所等を巡行、秋の大祭（10月）※区内5か所等を巡行、秋の伝統芸能発表会（10月）

思い出の参加行事　『裁断橋復元の記念事業（平成8年4月）』子ども会を通じて町内の子どもたちに声をかけ、笛や太鼓の練習を重ね、当日は堀尾跡公園の野外ステージで披露しました。『獅子屋形を改造（平成29年）』結成当初は社本鋭郎さん（元大口町長、初代名誉町民）が寄贈した獅子屋形でしたが、結成40周年を記念して息子の社本宮明さんが改造し、獅子諸式一切を寄贈してくださいました。先代の獅子屋形は大口町歴史民俗資料館に寄贈し、収蔵庫内で展示されています。

▲金助桜まつり（八劔社）

▲当時のいきさつが書かれた板木

取材・文／大口町 NPO 登録団体 ZOOM